



週)報

2014～2015年度))) R I 会長)ゲイリー C . K . ホアン)
R I のテーマ) 『ロータリーに輝きを』)
地区のテーマ)))「行動) ACTION」) ガバナー)坂本元彦)

国際ロータリー
第 2 5 7 0 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕狭山東武サロン〒350-1305) 狭山市入間川 3-6-14) TEL)04-2954-2511
〔事務所〕〒350-1305) 狭山市入間川 1 -24-48) TEL)04-2952-2277) FAX)04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@p1.s-cat.ne.jp
会長)稲見) 淳) 会長エレクト)奥富喜平))副会長)坂本松男) 幹事)江原伸夫)

〔第 3 グループ内の例会日〕 狭山(金)、新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(月)、所沢西(水)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 1018 回(11 月 25 日)例会の記録

点 鐘 稲見 淳会長
合 唱 手に手つないで
第 2 副 SAA 吉松君 吉澤君
卓話講師 ロータリー米山記念奨学会理事
金子千侍様 (秩父 RC)

出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
40名	28名	69.23%	72.00%

会長の時間

稲見会長

今日は金子パストガバナー、ようこそおいで頂きました。卓話、宜しくお願ひ致します。

11 月の最終例会となりました。どんどんと過ぎて行くわけですが、来週はクラブ協議会ということで、奥富エレクトに 30 分間担当して頂きます。

そこで人事と方針を言って頂きますので、皆さんにご承認頂くような形になると思いますが、宜しくお願ひ致します。

12 月はクラブ協議会が終了すると、地区大会が 6 日と 7 日にございます。6 日は私と幹事で出席してまいりますので、7 日は皆さんにご協力頂き、出来るだけ大勢の方に地区大会に参加して頂きたいと思っております。

12 月最終例会は 16 日、これは掬水亭で忘年会となります。かなり大勢の方に参加頂けるようなので喜んでおります。そしてもっとたくさんの方に参加して頂き、より大勢の方で忘年会、年忘れが出来たらと考えておりますので、ご協力宜しくお願ひ致します。

私は趣味が何もなく、お酒を飲むことが毎日の楽しみなものですから、平素飲んでいるアルコールについてお話をさせて頂きます。

ビール腹とよく言いますが、お酒を飲むと本当

に太るのかということについて、ダイエットの基本は食生活の改善と運動、私も運動はしておりますが、運動で痩せようとする、これは本当に大変なことで、やはり食べる量を減らす等ということだと思います。食事はある程度制限するとして、お酒はどうなのか、お父さんがビール腹だと太ったお腹をさすっていますが、あれは本当にビールで太るのかということです。

お酒のカロリーは、100cc 当りビールが 40kcal、ワインが 73kcal、日本酒が 103kcal、焼酎が 146kcal、ウイスキーとブランデーが 237kcal、ウォッカが 240kcal とかなりカロリーはあるわけです。低めなものから高めなものまで色々あります。ビールのカロリーが意外と低いのですが、これは 100cc 当りのカロリーです。ウォッカをそんなにがぶ飲みすることはなく、ビールはがぶがぶ飲むわけですので、意外と低カロリーでも油断は禁物ということです。こうしてみるとアルコール度数が高いものほど、カロリーが高い傾向にあります。お酒のアルコールが多ければ多いほど、カロリーが高くなるのは、アルコール自体が高カロリーだからです。

アルコールは 1g 当り 7kcal と高カロリーですが、その性質が普通のカロリーとは少し違います。実はアルコールのカロリーとはエンブティカロリーと言うそうです。糖質や脂質よりも先に、最優先でこのエンブティカロリーは熱として放出される、お酒を飲むと体が熱くなったり顔が赤くなったりしますが、あれはアルコールのエンブティカロリーが即座に熱として放出されるからだそうです。つまりお酒のカロリーが高くて、アルコールのカロリー自体はそんなに気にしなくて良いということだそうです。勿論お酒はアルコールだけで出来ているのではなく、お酒の原材料や後から加えられた糖分のカロリーはそのまま吸収されます。しかしお酒全体のカロリーから考えると、それは微々たるものです。特に焼酎やジン、ウイスキー、ブランデーといった蒸留酒は、その原材料のカロリーもかなり少ないと言えます。



お酒に含まれるアルコールのカロリーがすぐに放出されて、脂肪として蓄積されにくいなら、お酒はいくら飲んでも大丈夫かということですが、結論と致しましては、お酒だけを飲んでそんなにぶくぶく太るということは無いそうです。しかし気を付けなければいけないことは、お酒と食べるおつまみだそうです。人にもよりますが、ビールなどのお酒は食欲を増進させます。特にビールはアルコール度数が低いので、たくさん飲めて、その分つまみの量が増える傾向にあります。しかもアルコールのカロリーが優先的に燃やされるおかげで、おつまみの脂質や糖質が順番待ちとなり、燃やされないまま、体内に脂肪として蓄えられるということだそうです。

お酒を飲んでもそんなにつまみを食べない人、またお酒飲んでも箸を付けない人は、お酒を飲んでいる割に痩せているのではないかと、私もどちらかと言いますとつまみは食べませんので、飲む割には太っていないかと思っております。ちなみに、私は今171cmで70kgです。ですからそんなに太ってはいないと思っており、酒は人の3倍飲みますが、できるだけつまみは食べないようにしております。

ビール腹の正体ということで、お父さんの言うビール腹とは正確に言いますと、ビールとおつまみ腹ということになります。ビールを飲んだからと言って、それだけでそんなに太るということはずもないようで、ビールと一緒につまみを食べるから太る、更に年齢と共に下がっていく基礎代謝量(何もなくても消費されるカロリー)運動不足が中年のお父さんのビール腹を手伝っているのだそうです。私も毎日飲んでいますが、日曜日だけは飲まないように心掛けています。この年までまだ入院をしたり、大病をしたことが無いものですから、健康な方だと思ひ、これからも一生懸命飲みたいと思っております。



幹事報告

江原幹事

(定例理事会) 次の件が審議・承認されました。

(1) 12・1月プログラム承認

- 1、2012～2013年度決算承認投票結果が来ております。
- 2、2015～2016年度役員選出についてのお願いが来ております。
- 3、ガバナー月信掲載に関するお願いが来ております。
- 4、青少年交換学生「第43期派遣学生帰国報告会」開催のご案内が来ております。
- 5、冬の交通事故防止運動、広報啓発活動への依頼が来ております。
- 6、下期会費の納入について
- 7、事務局年末年始の休みについて
- 8、例会変更 新狭山 RC
- 9、受贈会報 新狭山 RC

〈 会員3分間スピーチ 〉

松浦法子会員

私は夫と22歳の息子の3人家族です。柏原に住んでおります。弟がトレスカーサというイタリアンレストランを営んでおられて、その手伝いを週に3日程、昼間はシャルレの下着の訪問販売をしております。



お店は毎日ピアノの演奏があり、奏者も日替わりです。今日は以前あった、お店で感動したお話をさせていただきます。

2011年3月、震災のあった2週間後だったと思います。あの頃は停電があり、お店もとても暗い雰囲気営業していたのですが、不安と怖さで一杯だったことを覚えています。その時にパーティーの予約を頂きました。病院の方で、毎日忙しく自分のお米も買えない、そんな状況だったそうです。ローソクの明かりとストーブの温かさでピアノの音色に私たち従業員も癒されたことが忘れられません。こんな時だったから感じたのだと思います。

震災に会った方は勿論、こんな時に看護師さん方、皆さんに声を掛け、勇気づけていた先生の姿が忘れられません。今健康で働いていることに感謝し、あの時の辛さややるせなさ、決して忘れてはいけないと思ひました。今後もトレスカーサを盛り立てて、お客様が来て良かったというお店にしたいと思ひます。

「外来卓話」・・・・・・・・

《 講師紹介 》

宮野ふさ子会員

本日は秩父ロータリークラブのバスターガバナーの米山記念奨学会理事・金子千侍先生をお招き致しました。

今日私は先生を皆野町までお迎えにあがったのですが、先生の医院には月曜日から土曜日までの午前中と午後の担当医のお名前が書かれておりました。木曜日の午前中のみ違うお名前が書かれており、先生は未だに現役で、午前中も午後も、土曜日まで診療なさっています。

私は米山記念の地区役員で、先生のお話を色々お伺いするのですが、まったくぶれずに凄い数字まで、もの凄く覚えていらっしゃるって、先生の頭の中はどうなっているのだろうと思っておりましたが、毎日診療なさっていることが、先生の頭の中を活性化しているのかと思いました。

本日先生の医院には張り紙がありまして、午前中の診療は10時まで、午後は3時からということで、私たちのために10時から3時までの時間を空けて頂いたことに感謝し、卓話を皆さんにして頂ければと思っております。

『米山記念奨学会について』

ロータリー米山記念奨学会理事 金子千侍様
(秩父 RC)



まだ現役で仕事をしております。動いているほうが呆けなくて良いと思っております。私はお酒と煙草は全く駄目なのですが、お酒を飲む方の楽しみ、今日は会長さんからしみじみと聞かせて頂き、このような例会にご招待頂いて、良いお話を伺い、徳をしてしまったという感じが致します。

お酒の話聞いたものですから、一つばかり私の頭の中にあるコトを申し上げます。二人の酒飲みが一晩中飲み、朝になったのでそろそろ家に帰ろうかということで外にでます。太陽が上がっているのですが、一人は「あれは太陽だ」と、しかしもう一人は「いや、あれは月だ」と論争を致しました。すると向こうを通る人がいたので、あの人に聞いてみよう、聞くわけです。なんとその人は、「おれはここ人間じゃないから、あれが太陽か月かわからない」と答えたという大変面白い話がございました。

米山記念奨学会のお話を申し上げますが東京ロ

ータリークラブができるのが1920年、ちょうど日本は戦争に入っております。戦争中の1940年~1949年までは、日本のロータリーは国際ロータリーから除外されておりました。戦争の影響だと思えます。その除外されている中で、米山梅吉さんが、ポール・ハリスと同じ年なのですが、梅吉さんの方が1946年に亡くなり、ポール・ハリスは1947年と一年違いで亡くなります。ポール・ハリスが亡くなったことで、たくさんのお金、お金の集まり、それに目を付けたのが、1917年にアトランタで国際大会を行いましたアーチ・クラフで、ちょうど残ったお金が26ドル50セントありまして、これを世界中の良いことのために使おうと、「Doing good in the world for education...なるべく教育のために使いたい」ということで、宣言を致しました。その宣言をアトランタ宣言と言っております。

アーチ・クラフはポール・ハリスが亡くなったことによって集まったたくさんのお金を基金にして、財団を作ろうと致しました。それを見ていて、1949年~1950年に入りますと、日本のロータリークラブがRIに加入することになりまして、1952年古沢文作さんという東京クラブの会長さんが、米山梅吉さんとポール・ハリスは本当に同じ仲間、同じ歩みをしてきて、米山さんは日本のロータリークラブを東京に作った。

その功績を称えて米山基金というものを作り、奨学生のために何か使いたいという案を出しました。そのことは満場一致で承認を得まして、集まったお金で二つの国の奨学生を選んで頂いて、そして日本に連れてきて、大学に入れ2年間学ばせ、その業績を自国に戻った時に国のために役立つという、こうした考え方で提案を致しました。

一人はタイ、バンコクのロータリークラブから推薦して頂きましたが、ソーチャードさんという方が選ばれたのですが、タイの国王までがお出ましになって選んだということです。そのソーチャードさんという方が、日本の東大の農学部に入りまして、シルク、生糸の生産を学び、国に帰りまして、今タイシルクと呼んでおりますが、その原動力になったと言われております。もう一人はランゲーンのロータリークラブに要請したけれども該当者がいないということで、そのお金がたまたま余ってありました。それが1954年です。そして国内の中で、特にインドから留学している学生で、エービーロイさんという方とイーブンさんという2人の学生、この2人は東大で海洋学を学び、国に帰って海洋水産業に就いておられたそうですが、経済的に大変だというその2人に、ランゲーンの方の1人分のお金を2つに分けて与えたということです。

実はこのことが米山記念奨学会の、いわゆる救貧学生に対する補助ということで、ずっと繋がってくるわけです。これは1998年まで繋がりました、それ以降は救貧学生ということではなく、

知的国際貢献ということで、ロータリアンとして他所から来る学生たちを、立派な人物を作るために奨学金を与えようということになるわけです。しかし初めは、お金に困っている学生に与えたということでございます。

大元になるのは何かといいますと、1956年に日本のロータリークラブが全て集まりまして、この素晴らしい計画を我々日本のロータリアンで行おうではないかという話し合いをするわけです。お金はどうしようということで、当時ピースが40円だったそうで、40円に10円を足し、月に一人10円ずつ出そうと、年間600円のお金がそこで集まりました。我々このお金に普通寄付という名前を付けて読んでおりまして、理事会等でも普通寄付という名前はおかしいという理事もいらっしゃいますが、これに対して、後程お話致しますが、特別なお金を出すことによって特別寄付という功労賞が与えられるわけですから、普通寄付と特別寄付という形になる訳です。

大変な勢いでございまして、2年後の1958年に第一回の奨学生8人に、寄付金の割り当てを致します。そして1959年にその倍の16人の学生が出てきます。その時に世話クラブという制度を作ったかどうかと、奨学生に対して他所の奨学団体のようにただお金を与えるだけでなく、もっと人間的にお世話しようではないかということで、世話クラブ制度というものができます。始めは会長さんが責任者となっておりますが、だんだんとロータリーの用事も増え、会長さんだけではとてもやっていけないということで、1971年にカウンセラー制度というものができます。この制度が出来た時に、会長が指名する会員の中の立派な方、その方をカウンセラーに指名しようということになりました。

何とかこの普通寄付金がだんだん貯まる、そうになってまいりますと、何とかロータリー財団の方式をとりたくなり、文部省に掛け合います。掛け合うのは1964年だったと思いますが、実はロータリアンがこのように寄付を行い、既に奨学生を招待している、大体年間3000万円のお金が当時集まっている、これを基金にして米山記念奨学財団を認めてくれないかと申し入れするわけですが、お役所のことですので、相手にしてもらえませんでした。それでも一生懸命に文部省に訴え、1954年、1955年、1956年と3年間、そして確かにその3年間の間にクラブは増えますので寄付金の額が増えてまいります。それで1967年に当時の文部省が認め、ロータリー財団米山記念奨学会という形をとったわけでございます。その時に、本当にお役人というのはケチと言いますか、実際にこれは寄付金でまかっている財団だから、寄付が嫌だということでお金が集まらないと大変なことになるとということで、必ず1人600円の寄付金をだすということで、全クラブかどうかはわかりませんが、かなり多くのクラブに対して、文部省

に誓約書を出させたということが有名な話です。そうして文部省から許可が出て、1971年には米山記念奨学生の活動も非常に活発になってまいりますので、世話クラブ、カウンセラー制度が出来あがるわけです。

世話クラブ、カウンセラー制度、これが他所の奨学団体には全くない、ロータリー独特の制度なのであります。そして数年過ぎ、財団に対する特別功労賞というものを出しまして、10万円の寄付をすると功労賞ということになります。そして100万円までいきますと、マルチの寄付者ということになり、このような形をとって、ずっと会員数が増えてまいります。非常に特徴的なことは、ロータリーは初めから男性の会員だけということでありまして、なぜ女性をロータリアンとして認めないのかと、カリフォルニアで裁判沙汰になりました。この裁判沙汰に対して、これは当然女性も会員になるべきだということが1989年シンガポールの規定審議会で認められることになります。認められ、女性会員がそこでとても増えたわけですから1989年からの3年間の寄付は本当に凄いものでした。そして1994年からは20億円のお金に達するようになりました。当時は年ごとに、その寄付金の額に応じて奨学生の数を決めていたものですから、980人、1003人となり、一番多い年が1080人でございました。しかし年ごとにこういったことでは非常に大変だということで、1998年から奨学生の採用を1000人にしようと決めるわけでありまして。

翌年1999年は、寄付金が落ちました。その理由は、1997年に消費税3%がなされ、ロータリアンの方たちは中小企業の方が多いものですから、消費税が上がることは大変な痛手で、そこでどうも寄付金が落ちたのではないかと考えられています。20億円寄付金がありますと、1000人の学生をずっと続けることができます。その時は学部が12万円、修士・博士課程が15万円という形で行っておいりましたので、寄付金が減ってきますと米山記念の資金というものが大変になってきます。たまたま50億円という基本財産がありますけれども、それ以外に43億5千万円位の特別積立金というものがあり、その取り崩しを行って、1000人をまかなっておいりました。しかし2004年になり、これでは大変だということで、学部の12万円を10万円に落としました。そして修士・博士の15万円を14万円に現在落としております。地区奨励奨学金の場合は、半分の7万円という形になっております。そして先ほど少し触れましたが、救貧学生に対する制度であったものを、江崎玲於奈さん達の懇話会で、文科省に提案致しました。

21世紀の日本の行く末とは、文化立国であり、教育立国であり、もう一つは科学技術創造立国、この3本建てで日本は進むのだということになり、そのような意味合いからしても、米山記念奨学生に対して救貧ということではまずいということで、

お金を持っている人であろうとなかろうと、お金を出してより以上の人間を作る制度にしていこうということに変わります。それが1999年です。

このような状態で現在も進んでおりますが、しかし世の中の情勢がありまして、今1000人の学生を割って800人、そして700人になりましたが、今度は720人位の状態で、奨学の寄付金の状況に応じた状態で採用生徒数を割り出す形に現在はなっています。学生に対しては、ロータリーの米山記念奨学会の制度として、学問は大学でしっかり学ぶ、そして異文化を理解する、異文化を理解することによってお互いの国を理解すれば、異様な紛争は免れるだろうということです。そしてコミュニケーション能力を高めるということが、今の米山の三本柱です。これで米山の奨学生を教育しているということでありまして、この地区では8月14日に私の町で、秩父音頭祭りというものがございまして、奨学生が喜んで参加致します。全く素人なのですが、かえって素人の方が学生たちに教えますと覚えが早く、良い踊りをしまして、浴衣を着て日本の姿になると女性は本当に喜んでしゃべります。そして終わった夜は皆野町の宝登山にある、ミリオンヒルの所で一晩懇親会を行い、翌日帰ってくるということをして、このところ続けているようです。米山奨学生に対しても異文化を理解させるということ、カウンセラーの方が中心となって色々なことを考えるのでしようが、クラブの行事等に参加をさせ、会員の色々な方とコミュニケーションを高めるということが必要ではないかと思っております。

この様な形で、現在米山記念奨学生の採用数が720人ということになっております。消費税増税が延期をされまして、その形をとる意味で何か選挙が行われるようではありますが、日本のロータリアンにとってこんなに素晴らしい国際奉仕は無いと思っております。極端に言えば、ロータリー財団と米山と日本のロータリアンは2つの負担を背負っており本当に大変なことです。米山にこれだけのことをしていたら、十分ではないかと私は思っております。しかしあまりロータリー財団を疎かにしてもいけませんので、私の寝言だと思って聞いて頂ければと思っております。

第1号であったソーチャードさんは数年前に来日しておりますが、その後亡くなっております。しかしタイシルクの後継者であったということは、米山の奨学生として大変な功績であるのではないかと思っております。



金子千侍様（秩父 RC）米山記念奨学会理事

米山記念奨学会卓話を仰せつかり秩父より参りました。

稲見君 金子千侍パストガバナー、ようこそ狭山中央 RC へおいで頂きました。今日の卓話楽しみにしております。

江原君 第2570地区米山奨学会理事金子千侍様お忙しい中ようこそおいで下さいました。本日の卓話の時間を楽しみにしております。何卒宜しくお願い致します。

寶積君 11/29の尚寿会、学術集會に是非ご参加下さい。

片山君 先週の例会を欠席しました。

栗原(憲)君 金子千侍様ようこそおいで下さいました、卓話楽しみです。

宮野君 ロータリー米山記念奨学会理事金子千侍先生本日はようこそおいで頂きました。卓話楽しみにしております。

守屋君 金子先生お久しぶりでございます。卓話を楽しみにしております。

中谷君 米山記念奨学会理事金子千侍様、本日はお忙しい中ご足労頂き誠にありがとうございます。卓話楽しみにしております。よろしく願い致します。

坂本君 米山記念奨学会理事金子千侍様、今日の卓話よろしく願い致します。3分間スピーチの松浦会員楽しみにしております。

2014～2015年度 ニコニコ累計額	1,595,000 円
------------------------	-------------

次の例会

12月 9日(火) 例会変更 12月6・7日の地区大会に振替

12月16日(火) 年忘れ家族同伴夜間例会

会場 西武園 「掬水亭」 点鐘 午後6時

